



Graduate School of Human and Environmental Studies, Kyoto University

## 「世界」が日常

人間と環境の関わりに関する諸問題を国際的な視点から追究している大学院人間・環境学研究科 <通称「人環」(じんかん)> では、研究および教育の両面において、国際交流が重要な基盤となっています。このニュースレターでは、そのような人環の国際交流の一部を紹介しています。

以下、名前の後の( )内は国籍/所属・身分

**外国人研究員(客員教授・准教授)** (2頁でセミナーの様子を紹介していますのでそちらも合わせてご覧ください)

- Thomas Buchheim先生 (ドイツ/ミュンヘン大学 教授)
- Ali Volkan Erdemir 先生 (トルコ/エルジェス大学 准教授)
- Pieter Dorenbos先生 (オランダ/デルフト工科大学 教授)
- Yann Nussaume先生 (フランス/パリ ラ・ヴィレット建築大学教授)
- Yves-Marie Allieux先生 (フランス/元トゥールーズ大学講師)

## 研究者の交流



第44回国際交流セミナー (2頁参照)

毎年本研究科から多くの研究者が学会参加や共同研究のために海外に出掛けるのみならず、多数の外国人研究者が本研究科を訪れ、研究活動、学会参加、学生指導などで目覚ましい貢献をしています(表1参照)。

2013年度、海外から本研究科を訪れた主な研究者は次の通りです。

### 招聘外国人学者

- Indar Etikawati Agnes先生 (インドネシア/サナタ・ダルマ大学講師)
- Andreas Ziegler Martin先生 (ドイツ/ダルムシュタット工科大学教授)
- Doris Bolliger先生 (米国/ワイオミング大学 准教授)
- Michael Kelly先生 (連合王国/サザンプトン大学 教授)

### 外国人共同研究者

- Atul Dnyaneshwar Sontakke博士 (インド/科学産業研究院主任研究員)
- Lauri Kitsnik氏 (エストニア/英国ケンブリッジ大学博士課程学生)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
外国人研究員 (客員教授・准教授)	6	6	5	5	5
招聘外国人学者	4	4	4	7	4
外国人共同研究者	2	5	4	1	2

表1 外国人研究者受入れ数 (人)

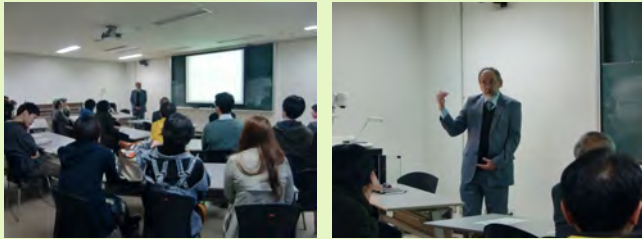
## 国際交流セミナー

大学院人間・環境学研究科では、常時一名ないし二名の外国人研究員（客員教授・准教授）が研究に携わっています。研究科として先生方を歓迎し、また先生方には各自の研究成果を研究科に紹介して頂くため、先生方の講演と懇親会で構成された「国際交流セミナー」を開催しています。

### 第42回 2013年4月11日

演者 アンドレイ・ボロビエフ (Andrey Vorobiev) 先生  
ロシア・モスクワ国立大学教授

演題 ロシアにおける科学の歴史とモスクワ国立大学



### 第43回 2013年4月17日

演者 オリンピア・ニリオ (Olimpia Niglio) 先生  
イタリア・eキャンパス大学教授

演題 ジョン・ラスキンの文化財保存



### 第44回 2013年6月5日

演者 トーマス・ブフハイム (Thomas Buchheim) 先生  
ドイツ・ミュンヘン大学教授

演題 ころをばなににたとへんー「翼の付いた戦車の動力」(プラトン)と「手のように」(アリストテレス)



### 第45回 2013年10月24日

演者 アリ・ヴォルカン・エルデミール (Ali Volkan Erdemir) 先生  
トルコ・エルジェス大学准教授

演題 親日国トルコ共和国における日本文学・日本文化研究および教育の過去と現在



### 第46回 2013年10月29日

演者 ピーター・ドーレンボス (Pieter Dorenbos) 先生  
オランダ・デルフト工科大学教授

演題 科学、社会における蛍光の意義



### 第47回 2014年1月28日

演者 ヤン・ニュソム (Yann Nussaume) 先生  
フランス・パリ ラ・ヴィレット建築大学教授

演題 戸建て住宅と持続可能な地域形成



## 外国人留学生

本研究科では多くの外国人留学生が勉学や研究に励んでいます。ちなみに、京都大学全体では2013年5月1日現在1,733名（留学ビザの者）の留学生在学していましたが、そのうち111名が本研究科で学んでいました（表2参照）。これは本研究科の全在学学生696名（修士課程の学生、博士後期課程の学生、研究生、特別聴講学生等を含む）の16%に当たり、また、その出身地は24の国及び地域に及んでいます（表3参照）。

1991年4月の開学から2014年3月までの間に、107名の留学生在が博士の学位を取得しました。

表2 外国人留学生人数  
(各年度5月1日現在、留学ビザの者のみ)

年度	留学生数
2009	1 2 7 人
2010	1 3 5 人
2011	1 2 1 人
2012	1 1 8 人
2013	1 1 1 人

表3 留学生出身国地域別人数  
(2013年5月1日現在)

中国	62	韓国	9	台湾	9
米国	4	ドイツ	3	インド	2
ブラジル	2	モンゴル	2	ロシア	2
イラン	1	インドネシア	1	ウクライナ	1
ウズベキスタン	1	オーストラリア	1	グルジア	1
ケニア	1	スペイン	1	ハンガリー	1
フランス	1	ベラルーシ	1	ペルー	1
ベルギー	1	マレーシア	1	リトアニア	1
ルーマニア	1				

計 1 1 1

## 留学生オリエンテーション／懇親会

年度初め、新入留学生対象のオリエンテーションと懇親会を実施します。在学中の留学生や日本人学生も大歓迎！（写真は2013年度オリエンテーション）



## 2013年度留学生見学旅行から



## 留学生見学旅行

本研究科では毎年11月、一泊二日の留学生見学旅行を実施しています。留学生の皆さんは、ぜひ申し込んで下さい（詳細は10月初めに発表予定）。

過去3年間の主な旅行先：2011年度・南紀白浜、2012年度・東尋坊と金沢、2013年度・広島と宮島。

## 学生の海外留学

本研究科の学生が海外留学をする場合、京都大学が海外の大学と締結している大学間交流協定に基づいて留学する派遣留学、一般留学（学位取得過程での在外研究を含む）、語学留学など、さまざまな形態が考えられます。関心のある人は早くから準備を始めて、ぜひ夢を実現させて下さい（京都大学留学生課発行「海外留学の手引」を参考にしてください）。以下、2014年4月現在留学中の3人を紹介しましょう。

### 岸本督司さん（創造行為論・博士後期課程）

オーストリア ウィーン工科大学建築・地域計画学部  
単科履修生／京都大学教育研究振興財団の在外長期研究助成による留学（2013年9月-2014年8月）



（左）シェーンブルン宮にて

（下左）研究対象のアドルフ・ロース設計の建物の前で

（下右）王宮内の国立図書館ブルクザールにて



### 溝口瑛さん（東アジア文化論・博士後期課程）

中国 上海・華東師範大学人文社会科学学院 高級進修生  
中国政府奨学金による留学（2013年9月-2014年7月）



研究会の仲間と打ち上げ



大学の隣にある学生寮  
いつもとてものどか



香港中文大学で、以前、人環に留学していた学生さんと再会

### 大学院人間・環境学研究科／総合人間学部 「国際交流推進後援会」にご加入下さい

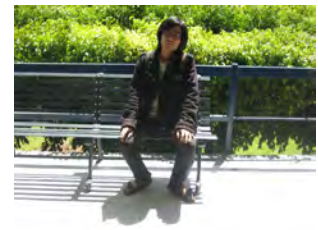
人環／総人に在籍する留学生および外国人研究者に対する援助、支援を行うと同時に、その他の国際交流活動を推進するための財政的基盤を確立する目的で、2005年1月1日付けにて「京都大学大学院人間・環境学研究科／総合人間学部国際交流推進後援会」が設立されました。この後援会は、本研究科の教職員に限らず、その趣旨にご賛同頂ける方ならどなたでも加入して頂けます（一口2000円）。詳しくは、人環大学院掛窓口までお問い合わせ下さい。

### 武田惇志さん（国際社会論・修士課程）

メキシコ グアダラハラ大学社会科学人文学校 客員研究員  
大学間交流協定による交換留学（2013年8月-2014年7月）



同級生と農村に合宿



キャンパス内で



先住民の自治学校にて先生や参加者と

#### ◇URL

<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/jinkan/>→人間・環境学研究科案内→国際交流

#### ◇問い合わせ先

\*国際交流委員／留学生アドバイザー 藤田糸子  
Phone: 075-753-6868  
Email: fujita.itoko.7c@kyoto-u.ac.jp

\*京都大学大学院人間・環境学研究科 大学院掛  
606-8501 京都市左京区吉田二本松町  
Phone: 075-753-2952  
Email: 110jinkan\_jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

